

選択科目(2枚)レジメ

記入者 〇〇〇〇〇〇
作成日 〇〇〇〇〇〇
課題No. H26 II-2-2
履歴No. 7
技術部門 水産部門
選択科目 漁業増養殖
専門とする事項 増養殖

H26年選択科目

我が国では第6次栽培漁業基本方針が示され、資源造成への取り組み強化、効果的な放流及び対象魚種の重点化が進められている。あなたが担当者として新たに魚類の資源造成のために種苗放流の推進・策定業務を進めるに当たり、下記の内容について記述せよ。

- (1) 種苗放流を実施する前に調査すべき内容
 - (2) 種苗放流を行う際の手順と留意すべき事項
 - (3) 種苗放流後に調査すべき内容
- (2枚)

1. 種苗放流を実施する前に調査すべき内容

- (1) 自県内の栽培漁業の重点化の対象魚種か否か、種苗の入手の可否 =これは役所の方針をうかがいをして、どうして可か?
- (2) 生息環境の適否 ← どうやってチェックする? 具体的に調査内容を示す。
- (3) 放流による生態系への影響 ← 〃
- (4) リスクとなる外部的な要素の有無 ← 一番は何か? ほかは調査はできません。

2. 種苗放流を行う際の手順と留意すべき事項

(1) 手順

① 近隣地域の同種の回収率の高い放流尾数、体長サイズを参考に、漁獲量に有意な変化がある規模で放流量を決定。② 放流場所は天然稚魚の成育場である放流適地に。③ 餌が豊富で、摂餌が活発に行われる時期。④ 輸送は生産場所から放流場所まで短時間で効率良い方法に。⑤ 放流前に放流場所で外敵となる生物の駆除⑥ 不合理漁獲が行われないように漁業者への告知。

(2) 留意すべき事項

- ① 放流直後の不合理な漁獲をなくするため、漁獲制限サイズの設定、休漁期間、休漁水域(区)を設定 規制ではなく、技術的方法で
- ② ~~漁業者の資源管理意識を高めるため、放流時、漁業者の参加を義務化~~

3. 種苗放流後に調査すべき内容

- (1) 放流直後の減耗がないことを確認するため、生残率、定着率を調査。
- (2) 漁業生産面から放流効果を確認するため、漁獲量・市場における標識放流魚の混入率を調査。
- (3) 種苗放流が資源造成に貢献しているかを確認するため、漁獲物の遺伝子情報を調査。 ← どう判断するのて可か?

効果的
重点化
に対する
答えは何
て可か。